

令和5年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 東京都立三田高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主任教諭（庶務担当）＝事務局長、副校長、非常勤教員 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭4名（教務担当、生活指導担当、2・3学年担当）、主任教諭5名（進路指導部主任、国際教育部主任、庶務部主任、保健部主任、1学年主任） 計12名
 - ・評価委員の構成
副校長、主幹教諭（生活指導担当）、主任教諭（庶務担当） 計3名
- (4) 協議委員の構成
有識者4名（大学名誉教授、大学客員教授、進路指導研究会、元学校支援センター支所長）、PTA会長、同窓会会長、同窓会役員、地域住民代表、近隣中学校長、近隣小学校長、消防署出張所長、区防災担当者、警察署生活安全課長 計13名
 - ・評価委員の構成
有識者2名（大学名誉教授、大学客員教授）、PTA会長、同窓会会長 計4名

2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和5年6月23日（金）15時35分から17時10分 内部委員12名、協議委員10名
学校経営計画・現状と課題・各分掌等の取組計画説明、三田高校が目指すべき生徒像の将来像、創立100周年について、意見交換
 - 第2回 令和5年11月10日（金）15時53分から17時7分 内部委員12名、協議委員9名
学校経営計画の進捗状況、分掌・学年等業務取組の中間報告、学校行事の実施状況、東京都指定校事業、進学指導推進校、中学生の本校志望状況の分析、今年度の学校評価アンケートについて意見交換
 - 第3回 令和6年2月9日（金）15時30分から17時 内部委員12名、協議委員9名
本年度の学校の取組、分掌・学年等の年度末総括報告、学校評価アンケートの結果及び分析、学校管理下における災害発生集計結果、意見交換
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和5年6月23日（金）協議会中で開催
令和4年度学校評価結果を踏まえた課題の確認、令和5年度学校評価の基本方針の確認、前年度学校評価アンケート及び結果配布
 - 第2回 令和5年11月10日（金）15時30分から15時50分 内部委員3名、協議委員2名
学校評価アンケート項目・質問内容の検討
 - 第3回 令和6年2月9日（金）15時から15時30分 内部委員3名、協議委員4名
令和5年度学校評価実施状況・回収状況・集計結果報告、アンケート結果（総まとめ）分析・考察、評価結果のフィードバックについて

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価アンケート報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施した。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・12月 全校生徒 対象：857人 回収：765人 回収率：89.3%
 - ・12月 保護者全員 対象：857人 回収：624人 回収率：72.8%
 - ・12月 教職員 対象：54人 回収：54人 回収率：100%

(3) 主な評価項目

- ・学校満足度、教育方針の理解、学習指導、施設・設備、進路指導、国際理解教育、生活指導、特別活動・部活動、安心安全な学校生活、防災教育、相談体制、地域連携、東京都教育委員会指定事業、ライフ・ワーク・バランスの推進（働き方改革）

(4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容を含む）

- ・「入学満足度」は、生徒・保護者・教員ともに肯定的回答が多い。生徒の肯定的回答率を過去のデータともう少し詳しく比較してみると、コロナ禍では、生徒の肯定的評価は、「よく当てはまる」がおおよそ60%、「やや当てはまる」が30%くらいであった。今年度は、「よく当てはまる」が69%、「やや当てはまる」が27%でコロナ禍が明け、より肯定的評価は、高まっている。
- ・「本校の期待する生徒の姿」の前文にある「スローガン」の認知度は、全体として上昇傾向にある。
- ・「授業への取組」は、生徒・保護者・教員ともに肯定的回答が多く、生徒は真剣に授業に取り組んでいると評価している。
- ・「自宅学習への取組」は、教員では肯定的回答が一昨年、昨年より7%以上上がった。保護者約72%、生徒約67%で共に昨年度より微増である。学年別に見ると、受験を控えている3年生では肯定的回答が毎年80%を超えているが、1・2年では52%、67%と低く、教員の評価と乖離している。
- ・「教員の教材・教え方への工夫」、「教員の質問への対応」は、昨年度と同様大きな変化は見られなかった。教員では質問への対応も教え方の工夫も共に自己評価が高い。生徒・保護者では質問への対応に対する評価の方が毎年高い。ただし、保護者の回答では、「わからない」が30%以上あるため、肯定的回答は50から60%台に留まっており、生徒と比べて肯定的回答が約30%少ない。
- ・「施設・設備」は、三者ともに例年通り否定的回答が肯定的回答よりも多く、肯定的回答が三者共に全項目中最も少なく、否定的回答が際立って多い。教員の肯定的回答は僅か7.5%しかない。自由記述では、特にトイレ（洋式化、匂い）、空調（教室ごとに調節できない、夏効き過ぎ、冬効かない、埃）、雨漏りの改善要望が多かった。また、自習スペースや自習環境の改善要望もあった。
- ・「校内整備・美化」は、生徒は肯定的回答がここ3年間漸増している。しかし、三者共に他の項目と比べて肯定的回答は教員・生徒が共に50%弱、保護者が60%と少ない。生徒では全項目中3番目に少なく、教員では2番目に少ない。自由記述でも、「美化意識が浸透していない」「校舎のあちこちに廃材のようなものが置きっぱなしになっている」「校内美化にもっと力を入れるべき」との指摘もあった。
- ・「適切な進路指導」は、肯定的回答が教員は一昨年・昨年と100%で、生徒では横ばい状態だった。保護者は、数%上昇した。1年保護者で「わからない」の回答が毎年20%程度ある。現3年生について入学年度から見ると、保護者の「わからない」の回答が著しく減少している。
- ・「将来を考える機会」は、教員で肯定的回答が減少した。生徒については、横ばいである。生徒の学年別に見ると、直近3年間、1年生で肯定的回答が最も多い。現3年生の入学年度からの推移について見ても、1年次の肯定的回答が最も多い。
- ・「将来について考えている」は、ここ3年間、生徒、保護者共に肯定的回答は横ばいである。教員は少し上昇した。また、今年度は保護者の学年別の差は殆ど見られなかった。
- ・「視野を広げる教育」については、教員では肯定的回答が一昨年まで90%以上で推移していた。それと比較すると昨年度は83.7%に減少したが、今年度は一昨年並みまで戻った。
- ・「基本的生活習慣」は、生徒・保護者では肯定的回答が昨年度、一昨年度と同程度である。教員ではやや減少傾向にある。
- ・「規範意識」は、肯定的回答が生徒・保護者は同程度であるが、教員ではここ3年間減少傾向にある。
- ・「品位」は、肯定的回答が生徒・保護者は90%に近いが、教員は約85%で90%を切っている。
- ・「学校行事」は、コロナ禍、その後の今年度も、肯定的回答は教員・生徒・保護者共に90%を上回っており肯定的回答が多い。
- ・「部活動」は、コロナ禍で新型コロナウイルス対応で当時の3年生にとっては活動できる最後の期間に部活動や公式大会が中止となり、当時の3年生の肯定的回答が生徒で50%を下回り、保護者では40%を下回った。コロナ禍においては、まだ昨年度まで活動時間の制限等はあったが、公式試合は再開され、生徒・保護者ともに肯定的回答が2・3年生で増加し、全学年でそれまでを上回った。今年度は、昨年度とほぼ同等であった。

- ・「体罰・いじめがない」は、肯定的回答が毎年、生徒・保護者の全学年で90%を遥かに超え、生徒では全項目中毎年最も多く、保護者では3番目に多く、「わからない」の回答も少ない。教員ではここ何年間も100%と評価が高い。
- ・「防災教育」は、3年前は三者ともに肯定的回答が大幅に減少し、一昨年度から生徒・保護者では連続して減少傾向にある。今年度はやや回復した。保護者では3年前から「わからない」が連続して増加し、全項目中2番目に多く、肯定的回答も少なく40%を少し上回る程度である。新型コロナウイルス対応により、1年生で実施していた宿泊防災訓練が3年前から中止となり、避難訓練はその年から放送による訓練となったこと等が大きな要因と考えられる。宿泊防災訓練については昨年度から推進校のみの実施となり、本校では代わりに1年生で総合防災訓練をこの1・2年、3月実施を計画している。本校の総合防災訓練は、宿泊こそ実施しないものの消火訓練、煙体験、救急救命訓練等、三田消防署と連携して実践的な内容を実施している。しいて言えば、この訓練が1年次のみであることが、全校的な肯定的回答に繋がっていないのではないかと。敷地が狭く実践的訓練に制約があるが、生徒の意識に残る防災講話・避難訓練・防災訓練を繰り返し実施する等、防災・減災教育の推進を図る必要がある。首都直下地震、南海トラフ巨大地震等の地震災害や巨大台風の襲来、気候変動による気象災害にも備え、さらに、今後の課題として、災害時に期待されている若い力である高校生たちの力を地域にも生かすために、地域との連携を図る必要もある。
- ・「相談・連絡への対応」は、今年度生徒は、一昨年度並みに肯定的回答が回復した。保護者ではここ3年間、肯定的回答が増加傾向にある。教員では100%ではなかったが肯定的回答が多い。ここ3年間、生徒は肯定的回答が90%以上であるが、保護者では「わからない」が20%以上あり、肯定的回答は生徒と比較すると20%以上少ない。
- ・「地域との良い関係」は、教員では肯定的回答が以前まで90%台で推移していた。一昨年度は80%台前半に、昨年度は70%台前半に減少した。しかし、今年度は、また一昨年度並みの80%台に戻った。この設問は、生徒・保護者共に例年、全設問の肯定的回答の平均を下回り、教員との評価の差が大きい項目である。保護者では「わからない」が全項目中で最も多かった。
- ・「進学指導推進校の認知度」は、ここ3年間、生徒では約80%、保護者では約90%で推移し、保護者の方が生徒より10%近く高い。
- ・「英語教育推進校」から発展的に変わった「GE-NET20の認知度」は、生徒と保護者共に肯定的回答が40から50%台で、今年度は上昇したが「英語教育推進校」時代の認知度（生徒87.4%、保護者88.2%）に比較して著しく低い。「英語教育推進校」のネーミングはどういう学校か分かり易かったが、「GE-NET20」は生徒・保護者そして本校への進学を考えている中学生やその保護者にも、どんな取組なのか発信の工夫が必要である。
- ・各事業の成果については、いずれも保護者では「わからない」が多く、肯定的回答は生徒より大幅に少ない。東京都教育委員会指定事業の成果については、保護者には評価が難しいと思われる。今後、それぞれの事業の取組を分かり易くHP等で紹介するなり学校からの発信の工夫が必要である。
- ・「働き方改革の認知度」は、平成31（令和元）年度に学校で具体的な取組が開始され、生徒の肯定的回答がその年約14%増加し約4分の3となった。しかし、一昨年度から減少傾向にあり、一昨年度は前年に比べ7%減少し、昨年度はさらに減少した。保護者ではここ3年間ほぼ同程度であった。教員の肯定的回答は上昇傾向であった一昨年度に比較して昨年度は10%以上減少していた。今年度はやや上昇したが、昨年と大きくは変わらない。昨年度から、高1からの新指導要領、観点別評価、新たな採点システムや事務手続きシステム等が続々導入された。今年度もそれらのまだ過渡期にあることが少なからず影響していると考えられる。

（5）評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

- ・「学校行事の取組」については、コロナ禍においても、肯定的回答はそれ以前と同程度の数値を維持していた。今年度、学校行事に対する制約はほぼなくなり、コロナ禍以前に戻った。コロナ以前、コロナ禍を問わず、今年度も、実行委員会を中心に生徒が主体となって学校行事に取り組んでおり、高い肯定的回答が得られたものと考えられる。しかし、本校の特長の一つであった海外修学旅行は今年度も実施できなかった。現在、来年度入学生の海外修学旅行実現に向け検討中である。
- ・保護者の回答では、毎年同じように、地域との関係、東京都教育委員会指定事業の成果、学習指導や教員の指導・対応、防災等に関する項目で、「わからない」という回答が多く、肯定的回答が少ない。

東京都教育委員会指定事業については、今年度、1学年保護者会時に、その概要のプリント配布を行ったが、認知度が大きくは上がらなかった。

学校としては、生徒・保護者への配布文書、保護者会、ホームページ等で保護者への情報発信をこまめに行い、保護者とのより緊密な連携を図ることが重要である。

- ・コロナ禍では、学校と保護者、学校と近隣との関係は、授業公開や学校行事の公開が実施しにくく疎遠になりがちであった。ポストコロナの今年度も、近隣との関係が密になったとは言えない。しかし、本年度1学年で実施した「地域探検」は、「生徒たちにとって近隣や港区を知るよい機会だった。」という声があった。今後、学校は以前に比べてたくさんある学校情報の公開の手段（HP、ツイッター、一斉メール等）だけでなく、そのような機会を有効利用し、地域との共通理解を深めることも大切である。
- ・学校評価アンケートや自由記述から保護者は、生徒たちの学校生活や部活等での様子を切に知りたがっていることが分かる。また、保護者は、学校行事の観覧や部活動の応援等を通じ学校全体の取組や様子を把握してきたことも改めて確認された。以前に比べてたくさんある学校情報の公開の手段をうまく使い、学校の新しい取り組み（GE-NET 20、探究学習等）の成果も一定程度発信していく必要性を感じる。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

（1）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・学校評価の「入学満足度」「体罰・いじめがなく安心」「学校行事への取組」等の項目で肯定的回答が多い（いずれも90%以上）ことから、生徒・保護者の大多数は本校の学校生活やコロナ禍での学校行事の取組に満足していることが確認できた。一方、学校評価において否定的回答や保護者の「わからない」の回答が多い項目や自由記述、更に協議委員からいただく意見や助言、情報を通して、教職員が重点的に取り組むべき課題や取組の方向性について認識を深めることができた。
- ・協議委員に本校の教育活動を理解していただくことにより、本校の教育活動への協力や理解をいただくことが引き続きできている。協議委員を通して近隣の小学校・中学校及び公共機関（警察・消防署等）と情報交換が少しでもできたことで、今後の本校の教育活動を考えるうえで参考になった。
- ・毎年、施設・設備の改善を求める声は著しく多い。その中で今年度、トイレの洋式化が進んだことは、学校評価アンケートの成果だと考えられる。今後も毎年少しずつであっても、順次、空調等の改善に繋げたい。

（2）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・学校評価アンケートの生徒の肯定的回答が80%に満たない項目に関しては、その要因に関して改めて考察・検討し、更なる改善を図る必要がある。
- ・「基本的生活習慣」「規範意識」「品位」に関しては、ここ3年間、生徒、保護者の肯定的回答の値に変化はないが、教員の肯定的回答は減少傾向にある。アンケート結果と教員の実感等も合わせて、考察する機会を持つ必要がある。
- ・校舎が古く老朽化していることは、既成事実である。「古いのと汚いのは違う」というコメントが協議会中にも学校評価アンケートの自由記述欄にも見られた。本校の古い施設・設備を清掃して丁寧に使いたい。今年度実施された生徒会主導による「教室・部室等の清掃ビフォー・アフターコンテスト」等生徒たちの主体的な取組にも期待したい。
- ・「防災教育」は、宿泊防災訓練がコロナ禍で中止になって以来、生徒・保護者共に肯定的回答がそれ以前に比べ大幅に減少し、昨年度は三者共にさらに減少した。今年度、生徒の肯定的回答は昨年と比べ増加したが、依然として高い値とは言えないのは、前記の通りである。授業時数確保と様々な学校の取組の中で日程調整が難しい中ではあるが、地震や気象災害に対する防災・減災は、生徒だけに限らず喫緊の課題である。1年次実施の「総合防災訓練」は成果を挙げていると思われる。さらに、年4回行われる避難訓練に工夫を凝らし、休み時間や放課後の時間帯の大地震を想定し、状況を変えての訓練や災害時の帰宅経路の確認等を織り交ぜる等、関係機関と連携し生徒の意識に残る避難訓練・防災訓練を繰り返し、いざという時に役立つ防災教育の推進を図る必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価アンケートを活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

（1）学校運営

- ・教務部・進路指導部・教科主任会が連携し、新学習指導要領及びグランドデザインに基づいて編成した

教育課程に基づく教育活動を実施する。

- ・戦略的な情報発信を展開し、本校の教育に理解と共感を抱く保護者・生徒の拡大を図り、「高い志の進路指導と国際理解教育、探究学習」の具現化に対する意欲がある生徒の獲得を目指す。

(2) 学習指導

- ・目標と評価を明確にし、基礎、基本の定着を図り、考えさせ、表現させる活動を通して、「主体的な学び」の実現を図る。ルーブリックを活用し、思考スキルの獲得を意識させ、自学自習の動機づけとする。
- ・「知的探究イノベーター推進事業」やここ数年間のイノベーター・ワーキンググループ（WG）の成果を踏まえ、WGを発展的に分掌化し、「新しい価値」を創造する探究学習を一層推進する。先進校訪問等の成果を生かし、本校の課題研究等を確立する。
- ・Teams, Forms, OneNoteなどを活用して、生徒一人1台端末に対応した授業を実践するとともに、ペアワークやグループワークで話し合い活動を取り入れ、学習の深化を図り、協働学習を推進する。
- ・国際理解教育を推進するとともに、SDGsの17の目標と169のターゲットを意識した教育活動を行い、エシカルな行動を実践し実現を図ろうとする態度を身に付けさせ、グローバル人材を育成する。

(3) 生活指導・進路指導

- ・時間遵守の精神の育成、ルールとマナーの徹底を図り、「時を守り、場を清め、礼を正す」指導を励行する。
- ・生徒会・ホームルーム活動・学校行事・部活動等の組織運営について、生徒主体に運営する支援体制を継続し、望ましい人間関係、協調・協働の精神や連携意識の涵養を図り、帰属意識を育成する。
- ・進路指導部主導による意図的・計画的なキャリア教育を推進し、面談指導を充実させ、評価・改善を重視したPDCAサイクルの指導を実施し、諦めない心と向上心を育成し、「高い志の進路実現」を図る。

(4) 健康・安全

- ・生徒の自己管理能力を育成し、健康で安全を心がける生徒の育成を図るとともに、体罰・いじめの未然防止を徹底し、異年齢交流を実施し、人を大切にする教育を推進する。
- ・地域機関と連携した全校での防災・避難訓練を実施するとともに、生徒による防災支援隊を組織し、自助・共助の精神の育成を図る。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 13人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
8	2	1				2

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回